

特集

国際的な英知を結集 新型コロナウイルス対策に挑む



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大は世界共通の脅威となり、人々の健康のみならず社会や経済にも重大な影響を及ぼしている。この状況を打破するために科学技術が果たすべき役割は極めて大きく、国際的な英知を結集して対策に取り組むことが必要だ。各国のファンディング機関が協力して研究支援に当たることが求められる中、JSTは4月上旬に国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID) の発動を決定した。

J-RAPIDは自然災害、人的災害など

不測の事象が発生した際、本格的な体制が整う前に必要な研究・調査を支援する目的で、2011年の東日本大震災をきっかけに創設された。日本側の研究者はJSTが、相手国側の研究者は各国のファンディング機関が支援する国際連携プログラムだ。日本だけでなくタイ、フィリピン、ネパール、インドネシアが災害に見舞われた際にも発動され、被害の調査や復興に向けた道筋づくりに貢献してきた。最大1年間で急を要する初動の研究・調査を進めるため、応募を受け付けると

随時審査し、迅速に支援を開始する。

今回の研究提案の公募は米国国立科学財団 (NSF)、英国研究・イノベーション機構 (UKRI)、フランス国立研究機構 (ANR) などと協力して、4月下旬から5月下旬にかけて実施した。計23件の応募の中から11件の課題が採択され、医学や工学、疫学の他、海洋学や社会科学、経済学を専門とする研究チームも含む多彩な顔触れとなった。9月号特集ではこのうちの4件について、研究・調査の内容や研究者の思いを紹介する。

※J-RAPIDの仕組みや活動については、過去のJSTnewsでも紹介しています。

2012年3月：<https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2011/201203/index.html>

2014年11月：<https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2014/201411/index.html>

2016年8月：<https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2016/201608/index.html>



2012年3月



2014年11月



2016年8月